

水害に遇ふた様な恰好で、店の間で會釋して内らえ這入らふとするのを番頭が、「ア、鳥渡々々……ハハハ。イヤ店の端で呼び止めて可笑ふ思ひなするやろが、茲の家は旦那と御寮んさんと、お上は夕ツタお二人切りや、萬事は私が何も彼も引請て居ます、旦那はんはホン宜いお人やが、御寮んさんと云ふのが内娘でな、ちよつとマア氣儘なお方やけれ共、マア〜辛抱してくれ。そこで鳥渡給金の極め丈けを仕て置き度いのやが、茲の家は給金は安い、半期これ（指を出す）……七圓や、安いなア。貴女見た様な綺麗なお娘、お白粉代にも足らへんやろが、其處を辛抱するのや、とマア此七圓が、十圓になるやら、二十圓に當るやら解らへん。斯ふ云ふとハハア夫れでは何ぞ、貰ひでも有るか落ちこぼれでも有るのか知らんと思ふやろが、お茶屋や料理屋と違ふ、見なはる通り堅氣の古着屋や、こぼれも貰ひも何も有らへん。そいたら何でそないに収入が良ふなるのや解らんやろ。まア聽きなはれ、早い話が茲に斯ふ云ふ品物がある、この通りお召やが昔物で性が良え。柄行きも恰度お前はん等を持つて来いや、是れで何程やと思ふ、見なはれ斯處に符牒が附いたア。夫れメチャと書いたアが、何程の事や解らへんやろ、四圓三十五錢や、安い物や無いか、新で造らえたら二十圓でも出けへん、古で買ふてもお前はん等の手へは、十圓より下では這入らぬ品物や、チヨイ〜と斯んな物が出た時に買ふといたら良えね、併し半期七圓の給金で、そないに仰山買物して、どないして拂えるか知らんと思ふやろ。イヤ咄をせんと解らんがナ、此前丹波の團部から、おもよんどんと云ふ女婢が來てたんや、

來る時は小さいな風呂敷包み一つ持て來たんやで。それが何うや、年期が明いて歸る時は大きな行李に二杯、ギツシリ詰めて去んだがナ、夫れちウのは、閑があると店へ出て來て、氣に合った品があると慾し想な顔して見てる。私が横から、おもよんどん此丸帯が慾しいのやろ、良かつたら買ふとき六圓二十錢や。けども番頭さん、そんな高い物分けて戴いても。エ、がな、何時なと有つた時に拂ふ様にしなはれ、マアお前はんの行李へ藏しとき。てな事云ふて分けて遣るやろ、物の二た月も經た時分に他家へお遣ひ物でも持て往た、おタメを貰ふたりすると、アノ番頭さん、先日分けて戴きました帯のお金に、鳥渡これ三十錢だけ、エ、六圓二十錢の内入に三十錢や邪魔臭いなア、けどマア帳面の端へ三十錢入と書いとく、また一ト月程してから二十四錢入。十八錢入、十錢入、七錢入四錢入と六七遍も這入た時分に、私の計らいで帳面ドガチャガ〜。そこはマア私の筆先一つで、何ふにでも成るのや。左様々々或る時もナ、私が三番藏へ用事が有て往かふと思ふたら、藏の間でおもよんどんが手紙を讀でるのや。好きな人から便りが有て、嬉しいやろ云ふたらナ、イーエ親元から茲んな手紙が参りましたのやが、解らん字がムります、濟みまへんが番頭さん一寸讀で貰えまへんやろか、ア、宜しい貸しなはれと、私が讀で見ると親から十圓の無心や、マアお恥かしい物をお眼に掛けました、何を云ふてるね、誰かてお互ひに困る時は一處や、親の爲や早ふ送つて遣り、サア送り度うはムりますすが唯今手許に、ア、心配しいな。店に遊だ金が有るさかい廻しといて上げよ。イエ貸して戴きましても返す